



愛郷無限

2015年6月6日号 NO.517

写真提供:大山市

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035

tuck-t@akita-tsujiya.jp

Subject：デザイン思考が地域救う、子ども達と一緒に

商店街でも様々なデザイン制作をお願いしている、澁谷デザイン事務所の代表・澁谷さんが大曲小学校の元教頭・小笠原先生とタッグを組み、とても興味深く面白い授業に取り組んでいます。小笠原先生は、大曲小学校の教頭時代に、学校と地域のつながり・相互扶助関係の重要性を考え、花火通り商店街と一緒に、土曜日の街中寺小屋【サタデースクール】開催や、子ども達の商店街探検ツアー、探検したお店のパンフレット制作と配布などに取り組まれました。子ども達にとっても大切な【斜めの人間関係】づくりと体験の場の創出です。

また地域のお祭りの大切さも理解されており、積極的に子ども達を参加させるべきと、市民夏まつり、花火ウィークに児童を出演・参加させたり、大曲の年代会梵天の全校生徒へのお披露目授業を開催してくれたり、PTA&親を介さずに、地域と子ども達とのつながり（地域内での斜めの人間関係作り）を模索し、慣習を打ち破って実現されてきました。その行動力ゆえに一部の親から誤解されることもあったようですが、私は心より尊敬しています。

その小笠原先生がこの春まで太田南小学校の校長を務められている最中、子ども達のデザインの思考を育むべく、澁谷デザイン事務所の協力を受けて、デザインを学ぶ特別授業に取り組まれました。デザインと言ってもただ単にかっこよいマークや文字を書くということではありません。良いデザインとは【引き算】なのだそうです。色々な要素や情報をただ闇雲に詰め込み・積み重ねるのではなく、数多に重なる様々な要素・要因をそぎ落としながらどんどん純化して、肝心な【肝】の部分を見つける作業がデザインであり、さらにそれを相手へ如何に印象的に伝え、求める効果を得るかということなのだそうです。則ちデザインを考えるということは、その作業をを通じてモノゴトや対象物を「分解/整理/検討」することを繰り返し、その純粹なる本質を見抜き・見極め、そして他者へ分かりやすく伝え・表現するという行為と言えましょう。その途中途中の行程の大切さを子ども達に学ばせ、体得させるために取り組まれたそうです。今以上に輪をかけて情報過多になっていく現代に於いて、「一番大切な本質を見抜く能力」を高めていくことが、子ども達が生きていく上でこれから益々重要になるからです。詰め込みの暗記ではなく、自ら考え、整理・純化する力。正にデザインの思考です。

私達も商店街活動のみならず、大曲納豆汁やひなび大曲の活動でもデザインとデザインの思考方法の大切さを痛感し、日々学んでいる最中です。

昨年度の子どもの作品の提示会が、J.R大曲駅コンコース前の東西渡り廊下で開かれております。5月18日～7月18日までの期間。子ども達がデザインに取り組んだテーマは太田南小の地元の名物【横沢曲がりねぎ】と【横沢ささら】。地域を知り、誇りに思うということにも繋がるはずです。しかも、作品はなかなかの力作揃い。大曲駅にお越しの際は是非見ていってください。